



「リーチ！」あと一つがなかなか出ず
ドキドキ ～ビンゴゲーム～

はが
楽しい親子対決！
育成会が「親子のつどい」
手をつなぐ育成会波賀支部

「手をつなぐ育成会」は、障がいのある子どものしあわせを求める親や関係者がつくる会です。子どもたち自身の自立心を大切にし、社会参加するための援助を目的に活動しています。

育成会波賀支部では、8月17日に会員とその家族、民生委員児童委員協議会障害部会のみなさん17名を迎え、メイプル福祉センターで「親子の



「まっすぐ行けよ～」
「そうそう うまい！！」
～カローリング～

つどい」を開催しました。
カローリングでは子ども・親・民生委員の3チームに別れて真剣勝負。親子対決ではなかなか勝負がつかず延長戦になり、最後は親チームが勝利し「くそあけた」と悔しがる子どもチームでしたが、「また勝負しよ」と次回に向けてやる気十分。ほかに、ビンゴゲームや輪投げでにぎやかにすごしました。

今後は、若い世代のみなさんに親子で参加していただけるような企画や内容を工夫し、PR活動にも力をいれます。
(波賀支部 森井裕矢)



「いったい福祉委員は、何をすればいいの？」

ちくさ
福祉委員研修会開催
「福祉委員の役割が理解できました」

小地域福祉活動は、住民による主体的なささえ合い活動ですが、その中心的役割を担うのが「福祉委員」です。

みなさんは自分の地域の福祉委員をご存知ですか？

千種支部の福祉委員は、138名で大半は、隣保の役員さんや婦人会役員さんです。

7月31日(金)、「小地域福祉活動における福祉委員の役割」をテーマに、福祉委員を集め研修会を開催しました。



レクリエーションも交え福祉委員の役割を考えました

参加者は、約70名。福祉委員の役割は、小地域福祉活動のまとめ役であり、世話役であり、身近な福祉の相談窓口でもあります。

また、福祉委員は、地域の福祉課題を、一人で背負い込むのではなく、隣保内の人にも関わってもらえるように段取りするのも役割です。

当支部では、まだまだ福祉委員活動が根付いていません。参加者からは、「研修に参加し、やっと福祉委員としての認識が持てた」との声もありました。今後も研修会を重ね、福祉委員が中心となって、福祉活動が地域に広がることを期待しています。

(千種支部 山本めぐみ)